

## 『資料館だより 2014 秋号』を発行しました。

平成26年4月以降の資料館での出来事や活動状況、行事予定などをお伝えする機関誌『資料館だより 2014 秋号』を発行しました。

秋号では、主な事業として4月に資料館として初めて個人に着目して実施した春の特別企画展『萩野昇の生きた時代』の様子や8月の夏休み企画「自由研究講座」、「日帰りバスツアー」の様子、参加者の感想などをお伝えしています。

このほかにもイタイイタイ病の教訓継承のため、資料館が進めている新たな取り組みや資料館で活躍いただいている語り部を紹介するコーナーなど盛りだくさんの内容となっております。

この「資料館だより」は、年2回（春・秋）発行しており、公立図書館等でご覧いただけるほか、資料館ホームページからも閲覧できます。

「資料館ホームページ」(URL <http://itaitai-dis.jp>)



(表面)



(裏面)

## 『語り部による伝承会』を開催しました。

9月27日(土)、『語り部による伝承会』を開催し、県内外から約60名の方々に参加いただきました。四大公害病の語り部が一堂に会して伝承会を行うのは昨年に続き2回目となります。

前半では、水俣市立水俣資料館の杉本肇さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の小町ゆみ子さん、四日市公害からは伊藤幹郎さん、そして地元イタイイタイ病資料館の柞山八郎さんにご自身の公害体験について語っていただきました。

4人の語り部は、それぞれ違う立場で公害と向き合ってきた方々ですが、そ

それぞれの体験に基づく講話では、公害病の恐ろしさや悲惨さ、そして患者を看病する者の苦労、発生当時の社会的背景や生活の様子などはもちろん、公害をもたらす差別や偏見がどれだけ人を苦しめ、辛いものであったかその事実を詳細に語っていただきました。参加者の方々は、講話の中で垣間見える語り部のお人柄に触れながら、それぞれの語り部独特の口調で語られるお話に真剣に聞き入っておられました。

後半では、講話いただいた4人の語り部とイタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長、資料館の鏡森館長による意見交換会を行いました。公害を風化させないために次世代にどのように事実や教訓を伝えていくのか、その方策などについて各地での取り組み事例を交えて発表していただきました。子どもたちに聞いてもらうための工夫という観点からは、より具体的な手法にも意見が出されました。語り部は、過去の事実を現代から未来へ伝え繋げる重要な役割を担っていること、そのためにも「語りもれ」なく事実を正確に語り伝えることの必要性が確認されました。

伝承会の最後には高木会長から今後の語り部に期待することについてお話をいただきました。

発生した地域や病状、原因物質等、公害の内容は違いますが、四大公害病が引き起こした悲惨な事実とその教訓を後世に伝え、四大公害病の資料館が今後も連携していくことを確認するとともに、一人一人が環境を守って行くことの必要性を伝承会の参加者全員で再確認することとなりました。



語り部講話



意見交換会

**『第2回公害資料館連携フォーラム in 富山』が開催されます。**

12月5日（金）～7日（日）、各地の公害教育の取り組みを共有し、これからの「新しい公害教育」を模索する『公害資料館連携フォーラム in 富山』がイタイイタイ病資料館を会場として開催されます。このフォーラムは、昨年の新潟県での開催に続き、2回目となります。

フォーラムは、地元で発生したイタイイタイ病ゆかりの地を巡るフィールドワークからスタートし、6日（土）の基調講演では藺田綾子さん（株式会社クレーン代

